

次世代深海探査システム委員会の設立経緯 及びスケジュール

1. 次世代深海探査システム委員会の設立経緯

平成 25 年 8 月、科学技術・学術審議会海洋開発分科会において、次世代有人調査船システムについて検討を行い、次世代有人調査船システムの開発に向けた検討を実施すべきとの評価を行ったところであるが、その際、以下の点に留意すべきこととされた*。

- 次世代有人潜水調査船システムへのニーズや目的を具体的に明らかにすべきこと
- 自律型無人探査機（AUV）・遠隔操作型無人探査機（ROV）との役割の違い等を精査すること
- 国民の理解の増進や、産業界への波及効果という面を踏まえ、新たな技術の導入を検討すること

※「平成 26 年度の海洋科学技術関連新規施策の事前評価について」

（平成 25 年 8 月科学技術・学術審議会海洋開発分科会）

また、平成 27 年 7 月 15 日、海洋開発分科会において、次世代深海探査システムのあり方について調査を行うことを目的とした、「次世代深海探査システム委員会」が同分科会の下に、新規設置されたところ。

2. 検討の進め方案

国立研究開発法人海洋研究開発機構が運用する有人潜水調査船「しんかい 6500」については、建造から 25 年以上が経過した現在、建造に係った技術者の定年退職等により製造メーカー等の知見や技術が失われようとしていること等から、後継船の検討を行うべき時期にある。

また、運用開始からも 25 年目を迎えており、その間の調査と成果は国内外で評価されている一方で、無人探査機（ROV）や自律型無人探査機（AUV）の進歩も見られるところである。

このため、「しんかい 6500」のこれまでの成果や有人潜水調査固有の必要性についてヒアリング等を実施すると共に、ROV や AUV 等の無人潜水調査との関係等も踏まえ、今後の深海探査システムの在り方について総合的に検討する。

3. スケジュール案

<第1回> 1月8日13時～

- 委員会の背景、設立経緯、今後の議論の進め方等
- JAMSTECにおける深海探査のヒアリング

<第2～4回> 2～4月頃

- JAMSTECにおける深海探査のヒアリング
- 各分野における深海への取組み等のヒアリング
例) 海中ロボット等、海洋生物、地震防災、海洋鉱物資源、民間企業等

<第5回>

- 国家基幹技術の視点から、今後の深海探査の必要性
- 民間企業が考える、国家基幹技術とは

<第6回>

- これまでの報告及び議論のまとめ
- 今後の次世代深海探査技術システムの方向性について議論
- 次世代深海探査システムの間とりまとめ案

<第7回> 7月頃

- 次世代深海探査システムの間とりまとめ
- 平成29年度概算要求への提言

<第8回以降>

- 最終とりまとめに向けた議論